

答辞

柔らかな日差しに照らされ、通い慣れた通学路にも春の色が濃さを増す季節になりました。

この良き日に僕たち八十二名は、隅田中学校を卒業します。

先生方、在校生の皆さん、僕たちのために、このように素晴らしい卒業式を挙行して頂き、本当にありがとうございます。

保護者の皆様、僕たちのために足をお運び頂き、卒業生 二同心より厚くお礼申し上げます。

隅田中学校で過ごした日々を振り返ると本当に色々な事が思い出されます。

三年前の春、この場所で入学式をむかえました。初めての制服、初めての通学路、初めての先生や友達、クラブ活動、これから始まる中学生活に楽しみと不安でいっぱいでした。しかし、五月の紀北青少年の家での宿泊研修で、そんな不安は、すっかり消えてしまいました。初めてのレクリエーションでのドッチビーの盛り上がった声、協力して作ったカレーの味や、キャンプファイヤーの炎に照らされるみんなの笑顔、今でも鮮明に思い出されます。あの日から僕たちはたくさんの行事を重ねながら、絆を深めてきたのだと感じています。

二年生では、校外学習で神戸に行き、班別行動では道に迷い不安になりながらも目的地を目指しました。南京町で食べ歩きしながら散策した時は、いつの間にか大人数になり、とても楽しかった事を覚えています。またあの日はみんなで海に向かってダッシュしたのも僕にとっては大切な思い出です。

文化祭では、クラス別にダンスをしました。ダンスの苦手な子も、得意な子に教えてもらい、クラスで工夫をこらした創作ダンスに挑戦しました。あの時のコウメ太夫の二人のインパクトは忘れられません。そして来年は僕たちも先輩方の様に劇をするものだ当たり前の様に思っていました。残念ながら三年生の文化祭は中止になりました。その代わり、この世に当たり前なんてないのだと、今この瞬間を奇跡だと思い大切に過ごさなければいけないのだと学ぶ事が出来ました。

職場体験は、とても貴重な経験が出来た三日間でした。緊張しながら挨拶に行き、慣れない環境で分からない事もたくさんありましたが、職場の方に

優しく教えてもらい、相手のことを想う大切さや、何のために働かなくてはならないのかを学ぶ機会になりました。朝から夕方まで、一生懸命働いて、すごく疲れましたが、当たり前のようにこの苦労を毎日して僕たちを支えてくれている家族の偉大さに改めて気付きました。

中学校生活の中で特に色濃く思い出に残るのはクラブ活動です。目標に向かって毎日一生懸命練習に励んできました。始めは先輩達に付いていくのが精一杯でしたが、一年生になり後輩ができ、近畿大会に出場することを目標に頑張ることで、タイムや技術も向上していきました。しかしその目標を突然奪われ心にぽっかり穴があき、どこにもぶつけられない悔しさの中、引退まで精一杯頑張る事が出来たのは、僕たちに親身になって寄りそってくれる顧問の先生、そして共に頑張ってきた仲間のおかげだと思います。

三年生最後の体育祭は、時間は短かったかもしれませんが、気炎万丈のスローガン通りの勢いで、忘れられない体育祭になりました。毎日放課後に残って準備する中で、喧嘩になったり、意見の食い違いもありましたが、皆の絆がより一層強くなり、ダンスもクラブ対抗リレーも笑いあり感動ありの Successful 体育祭になりました。

修学旅行は、定期テスト、英検と次々にやってくる難題を乗り越えた僕たちにとって最高のご褒美のように感じました。

一日目は、長崎市内で自由行動がありました。みんなでカステラを買って食べたり、中華街を回ったりしてホテルを目指しました。ホテルではみんなが集まって、トランプをしたり、枕なげをしてとても楽しい夜を過ごしました。

二日目は、ペーロン体験とハウステンボスに行きました。クラス対抗のペーロン大会では、太鼓に合わせ気持ちを一つにさせて勝負しました。ハウステンボスでは、はじめてのVR体験や佐世保バーガーを食べたり、大きな園内を回ったりしました。夕食にみんなで食べたレモンステーキやきれいな夜景は一生忘れられません。

三日目は、平和学習で原爆資料館に行き原爆についてのお話を伺い、平和について学びました。原爆は一瞬にして無差別に大量の人の命を奪った恐ろしい兵器です。今この現在でも多くの爪あとを残しています。被爆者の方の体験は、絶対にこのような悲劇を起こしてはいけない教訓として未来に語り続けなければならないと思います。

僕たちがこのように楽しく三年間を過ごせたのも先生方が陰で準備して下

さったおかげです。

隅田中学校の先生方今日までの三年間本当にありがとうございました。

中尾校長先生。夏のある朝は汗だくになりながら、冬のある朝はサンタクロースの格好で「おはよう」と毎朝、僕たちに元気を届けて下さいました。コロナウィルスの影響でなくなってしまうのではないかと思っていた修学旅行。後から校長先生が交渉してくれていた事を知りました。例年通りの日程で行う事ができ、僕たちには忘れられない一生の思い出を作る事ができました。

清水教頭先生。とても話しやすく、先生の車に乗せていただいた時は、いつも楽しいお話をしてくださいました。学校の水が出ないと伝えれば、僕たちのために真っ先に駆けつけて下さいました。

阿波谷先生。学年主任であった先生は、どんな時も僕たちの事を一番に考えて下さいました。三年間嫌な事、嬉しい事があった時、僕たちのそばには先生の温かさがありました。また吹奏楽部の顧問としてタクトを握り、部員と共に奏でる優しくも力強い音楽は、僕たちが入学したあの日から、変わらず感動を与え続けてくれました。最近の先生の口癖である「泣いてもいいから歌おう」その言葉通り、この後、僕たちが届ける最後の歌まで、涙は取っておいてください。

井上先生。誰よりもパワフルで笑顔がキュートな先生の数学の授業は、細かい所から丁寧に、かつスピーディーで、授業の後には大きな達成感を感じていました。また進路指導の先生として、よりよいアドバイスをたくさんして下さいました。僕たちの不安が解消できるまで丁寧に寄り添って下さり、僕たちのお母さんのような存在でした。先生のおかげでとても心強かったです。

山本先生。先生の熱心な体育の授業では、あきらめない心の大切さを教わりました。また生徒指導の先生として、この隅田中学校をより良くするために指導して下さいました。時には叱られることもありましたが、僕たちが正しい方向に進める様にと導いて下さいました。先生が口癖の「最後は俺が責任を取ってやる」という言葉のおかげで、僕たちは色々な事に挑戦する事が出来ました。

早稲田先生。先生が直接授業して下さいる事は少なかったですが、「一緒に掃除をして下さり、いつも優しく接して頂きました。先生のステキな笑顔に、僕たちはいつも元気になりました。」

福井先生。先生は、僕たちのおじいちゃん的存在で、いつも優しく声をかけて下さいました。面接の練習では、礼の仕方など基本の部分を教えていただきました。

中山先生。先生はいつも優しく、難しい問題も分かるまで教えて下さいました。先生が前でしてくれる実験は、とても面白くて授業が楽しみでした。谷口先生。先生はいつも実力テストや入試を想定した問題を分かりやすく指導して下さいました。エディー先生との授業もとても楽しかったです。

大前先生。先生の社会の授業は、グループ学習が多く、そしてダジャレが多かったので、楽しく学習することができました。また、分からない事があれば、丁寧に教えて下さいました。

山崎先生。国語の授業では、みんなが意欲的に発言できる空間を常に作って下さいました。僕たちが少し困った時はそっと助け舟を出して下さい、近くにいてくれるだけで安心感がありました。

この隅田中学校で、信頼できる先生方と出会えた事を本当に幸せに思います。先生方のおかげで、僕たちはこの隅田中学校が安心できる第二の家のような場所でした。三年間お世話になりました。本当にありがとうございます。

そして三年間一緒に過ごしてきたみんなへ。

僕は学校が大好きでした。学校へ行きたくないと思った日は、本当に一日もありません。どうして学校が好きなのかと考えてみました。すると行事があるから好きなのではなく、友達と会えるから好きなのだと思ってきました。休み時間、教室で他愛もない話をしたこと。運動場で泥だらけになって鬼ごっこをしたこと。特別なにかある日でなくても、教室を笑顔いっぱいにした日々は、忘れることの出来ない一生の思い出です。今年は制約のある二年でしたが、みんなのおかげで悔しいことも乗り越えることができました。もっと一緒に過ごしたい。笑い合いたい。これが正直な気持ちです。しかし僕たちは前に進まなければなりません。

これから、僕たちはそれぞれの道に向かって歩み出します。毎日一緒にだった親友と離れ別々の進路を歩む人、温かい家族と離れ、たった一人で遠く離れた場所で高校生活を迎える人、会いたい時に会える今のような生活にはもう二度と戻っては来ません。その道の先には多くの困難が待ち受けているかもしれません。その重みに負けてしまいつくなるかもしれない。しかし、僕たちにはこの隅田中学校で学び培った自信があります。未来に待ち受ける

どんな困難にも向き合いそれぞれがまた再び会う時に必ず輝いていられる様に成長したいと思います。

在校生の皆さん、かけがえのないこの中学校生活をどうか素晴らしい時間にして下さい。何か悩みがあればいつでも頼って下さい。卒業しても離れていてもいつも同じ隅田中学校の仲間だと思っています。

そして生まれてから今まで十五年間大切に育ててくれた家族へ。いつもは照れくさくて言えないけれど、卒業生、みんなの気持ちを代表して伝えたいと思います。僕たちを産んでくれてありがとう。大切に優しく、そして厳しく育ててくれてありがとう。迷惑をかけたり、八つ当たりをしてしまったこともたくさんありました。しかし、辛い時、落ち込んでいる時にはそばにいて、話は何でも聞いてくれました。家族の支えがあったからこそ今の僕たちがいます。本当に十五年間ありがとう。義務教育は終わったけれど、これからも僕たちはずっと、お父さん、お母さんの子供です。お父さんや、お母さんのような素敵な人になれるように頑張るので、これからも見守っていて下さい。

最後になりましたが、僕たちを家族のように温かく励まし、時には厳しく導いて下さった先生方、様々なところで僕たちを支えて下さった職員の皆さま、本当にありがとうございました。

お別れにあたって皆様の御健康と御活躍、そして隅田中学校の今後益々のご発展を卒業生一同心からお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和三年三月九日

卒業生代表 三林 優作